

## Poema de Fernán González I

Translated by OTA Tsuyomasa

### Abstract

Fernán González, son of Gonzalo Fernández, count of Arlanza and the Duero, was born in the first years of the ninth century near Burgos and died in 970.

This legendary count of Castile grew up in the castle of Lara.

Defying Ramiro II of Leon and Sancho II of Navarre and fighting Muslims in the midst of Reconquista, he established, despite being imprisoned twice, the foundations for an independent Castile, which, during his time, was only a frontier of the kingdom of Leon.

He died after living a turbulent life, and his remains were buried in the monastery of San Pedro de Arlanza, which he himself had founded.

The poem of Fernán González was written between 1250 and 1271 in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way). Its style has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This time translation is made from strophe 1 to the 201.

## フェルナン・ゴンサレスの歌 I

太田 強 正 訳

フェルナン・ゴンサレス (Fernán González) はスペイン北部ブルゴス (Burgos) にほど近いララ (Lara) の有力者の家に 10 世紀の初め頃生まれ、幼少期をララの城で過ごした。時はアラブに占領された国土の再征服 (Reconquista) の時代で、レオン (León) 王国の辺境にあったカスティリヤ (Castilla) 地方に生を受けたフェルナン・ゴンサレスは伯爵として後に世界に号令することになる大帝国スペインの母体となるカスティリヤ伯爵領の基礎を築いた人物である。

因みにカスティリヤとはアラブとの前線で城 (castillo) の多くある地方の意である。

数々の伝説に彩られた英雄である伯爵は非常に抜け目のない人物であったようで、レオン王国の混乱とアラブに対する勝利に利を得てカスティリヤを独立に導いた。

しかしレオン王国のラミロ (Ramiro) 二世やナバラ王国のサンチョ (Sancho) 二世などと対立し二度の投獄の憂き目にあっている。

この叙事詩は伯爵自身が建立したサン・ペドロ・デ・アルランサ (San Pedro de Arlanza) 修道院の無名の修道士によって 13 世紀後半に書かれたものと言われ、史実と異なる箇所が (例えば伯爵はコルドバ <Córdoba> のカリフ王国 <後ウマイヤ王朝> の実質的独裁者アルマンソル <Almanzor> と戦ったことになっているが時がずれていて合わず、実際は戦ったのはアブデラマン <Abderramán> 三世であった) など数々あ

る。

作品はメステル・デ・クレレシーア (mester de clerecía) と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人 (jugulares) によるメステル・デ・フグラリーア (mester de juglaría) と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア (cuaderna vía) と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩である。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

今回は第 1 連から第 201 連までを掲載する。

- 1    すべてのもを作った父の名において  
       美しい乙女から生まれることを望んだ方の名において  
       両者と同等の聖霊の名において  
       そしてカスティリヤの伯爵の名において、わたしは文を書きたい
  
- 2    陸と海を造った主が  
       一過ぎ去った出来事を私が語れるように—  
       良き師である主が私に示すべきです  
       いかにか海から海へと全地が回復されたのかを

- 3 初めに私はあなたたちにいかにそれを失ったかを話さなければなりません  
我々の祖先がいかにそれ失ったかを：彼らがどんな苦悩のうちに生きたのかを  
伝来の土地を失った者たちがどのように逃げまどったのかを  
それでも死なないで彼らが味わった苦しみを
- 4 我々の祖先は多くの苦悩を味わいました  
多くのひどい恐怖と多くの辛い経験を  
彼らは寒さと飢えと多くの辛苦に耐えました  
今日の喜びは当時の苦しみから来ています
- 5 その間に私はあなたたちにこの時代について話して行きましょう  
いかに土地が失われ、獲得されたかを  
.....  
皆がドン・フェルナンド伯爵を頼るようになるまで
- 6 古い時代からいかに長い時間が経ったか  
いかに土地が良き王ドン・ロドリゴ<sup>1)</sup>に与えられたか  
いかにそれを彼の不倶戴天の敵が手に入れることになったのか  
その男は誉れ高い身であったが、哀れな乞食に成り果てました
- 7 これは邪教を信じるマホメットがしたことです  
.....  
.....  
その口で多くの悪しきことを説きました

- 8     マホメットが皆に教えを説いてから  
      人々は心を変えました  
      .....  
      キリストの死を忘れてしまったのです
- 9     スペイン人がキリストを知ってから  
      その教えで洗礼を受けてから  
      決して他の教えに変わろうとしませんでした  
      しかしその教えを守るために多くの苦しみを被りました
- 10    スペイン人たちが説かれた聖人たちのこの教え  
      そのために彼らは血を流さなければなりませんでしたが  
      使徒たちや殉教者たち、この聖なる臣下たちは  
      真理のために剣に掛けられました
- 11    聖なる乙女たちはこのように決めていました  
      男と交わることはまったく望みませんでした  
      世の快樂に気持ちが動くことはありませんでした  
      このために彼女たちはひどく醜い獣に打ち勝ったのです
- 12    最初の預言者たちはこのことを預言しました  
      聖なる証聖者たちはこの教えを説きました  
      というのは他の神々には決して真理は見つけられなかったからで  
      す  
      聖ヨハネが斬首されるときにそう断言しました

- 13 多くの王たちや伯爵たち、そして多くの権力者たち  
 教皇たちや大司教たち、司教たちや修道院長たちが  
 この教えのために死にました、このことはあなたたちがしっかり  
 信じています  
 それ故天に彼らはすべての遺産を持っています
- 14 私たちは道に戻り話を続けましょう  
 それが始まったスペインに戻りましょう  
 書が言っている通りにお話しします  
 私たちがゴート人と呼んでいる最初の王たちについて
- 15 このゴート人たちはオリエントの地から来ました  
 キリストがこの戦士たちを送り込んだのです  
 この人たちはマゴグ<sup>2)</sup>の血筋から出ました  
 彼らは世界を征服しました、失敗することなしに
- 16 これらのゴート人は初めはキリスト教徒ではありませんでした  
 エジプトのユダヤ人でも異端の徒でもありませんでした  
 むしろ誇り高い異教徒で  
 戦いにおいては非常に運に恵まれた人々でした
- 17 彼らはローマの全領土を荒らして  
 ある者を捕え、ある者を殺して  
 . . . . .  
 . . . . .

- 18 彼らはその強大な力でスペインに入って来ました  
.....  
.....  
教皇アレクサンデル<sup>3)</sup>の時でした
- 19 彼らは海から海まで全スペインを奪取しました  
町も城も彼らから身を守ることができませんでした  
彼らはアフリカからテッロニア<sup>4)</sup>まで支配しました  
ずる賢い連中で、神が彼らを導くことを望んだのでした
- 20 ゴート人たちは聖霊から靈感を受けました  
悪しき主張がすべて露わにされ  
人々は崇拜しているのは悪魔だと知りました  
それを信じた者は皆ひどく騙されたのです
- 21 彼らは理解されるために教師たちを送りました  
信じなければならぬキリストに対する信仰について  
教師たちは、お知りおきください、非常に積極的でした  
彼らは信仰のすべてを人々によく理解させました
- 22 教師たちは言いました：《これはすべて何の価値もありません  
あなたたちは聖なる水で洗礼を受けていません  
その罪と過ちは異端と呼ばれます  
魂はすぐに罪から清められるでしょう》
- 23 ゴート人たちは洗礼を受けました

彼らは全キリスト教会の光と星でした  
 彼らはキリスト教を高め、異教を貶めました  
 フェルナンド伯爵は正にこのことをしたのです

24 . . . . .

臣下が彼に非常に忠実に仕えました  
 彼らは世界中から来た、選りすぐられた人々でした  
 世界が続く限り、彼らは忘れられないでしょう

25 ゴート人の王たちがこの世から去った時に  
 彼らは天国に行き、大いなる王国を継ぎました  
 残った人々は直ちに王を立て、  
 書にあるようにドン・スインドゥス<sup>5)</sup>と呼びました

26 良き戦士であるドン・スインドゥスの統治下に  
 スペイン人たちの牧者サン・エウヘニオがいました  
 この聖なる証聖者はトレドに住んでおり  
 イシドロがセビリャで大司教であり君主でした

27 生え抜きの君主スインドゥスが死にました  
 その支配下にスペインとアフリカがありました  
 直ちに創造主は彼らに非常に良い牧者を与え  
 すぐに王バンバが来ました、彼は今までと同じかさらによい君主  
 でした

28 バンバ、この王のことはあなたたちが聞いたことがあるように



選りすぐられた民であるゴート族の出身でした  
 王位に就くことのないように隠れていました  
 知られないようにバンバと名乗りました<sup>6)</sup>

- 29 人々はスペイン中を探して、彼を見つけて  
 力づくでその王国を統治させました  
 彼は自分が毒殺されるだろうことをよく知っていました  
 それ故進んで王位に就くことは望まなかったのです
- 30 王は非常に真つすぐな人で、名家の出でした  
 非常にフランクで、非常に勇敢で、非常に分別があり  
 忠実で、誠実で、非常に強運の持ち主でした  
 彼を殺した者が苦しみを逃れることのないように
- 31 彼はすべての土地を分け、司教区を一つにしました  
 . . . . .  
 土地が区画され  
 土地が彼らによって支配されていることが示されました
- 32 すべての事が良い状態に置かれました  
 しかし王はその生き様で悪魔に非常に重くのしかかりました  
 悪魔は彼に毒を与え、王バンバは毒殺されました  
 このような良き王は天国に引き継がれますように
- 33 その後エヒカ<sup>7)</sup> という名の王が治めました  
 二年間だけ王位にあって生き

二年の後この世から引き離されました  
 しかし民は悲しみませんでした、悪人であることがはっきりして  
 いたからです

- 34 エヒカがわずかの期間で死ぬと  
 全地域がヴィティザ<sup>8)</sup>の領土になりました  
 彼はゴート人の血筋で、強力な男で  
 非常に勇気があり、大きな心の持ち主でした
- 35 ヴィティザが死ぬとドン・ロドリゴが王となりました  
 モーロ人たちは彼を不倶戴天の敵だと思っていましたが  
 キリスト教徒たちにとっては保護者であり、大きな後ろ盾でした  
 しかし彼の罪のため神は彼の味方ではありませんでした
- 36 ロドリゴは海を越えて行き、多くの地の君主となりました  
 良き戦士である王はモンテス・クラロス<sup>9)</sup>を勝ち取りました  
 . . . . .  
 いかにもその地を失ったかについては大きな苦痛でした
- 37 スペインは当時全く一つの信仰を持っていました  
 聖母の御子に従順で  
 そのような崇拜で悪魔を苦しめていました  
 スペイン人の間に嫉妬や争いはありませんでした
- 38 教会はすべて良く整えられていました  
 聖油やロウソクが供給され

十分の一税や初物奉納が忠実に実行されていました  
人々はすべて信仰に根を下ろしていました

39 すべての農民は苦役をして生活していて  
権力者たちは盗賊ではありませんでした  
誠実な君主として自分たちの民を良く護っていました  
貴人も庶民も自分たちの権利をもって生活していました

40 ことはすべてこの様な状態でした  
このような幸福が悪魔には大きな苦痛でした  
この不幸者がこの状態をひっくり返し  
人々の喜びが涙に変わりました

41 ヴィティザの息子たちは生まれるべきではありませんでした  
彼らが裏切り行為を始めたからです  
悪魔がそれを企み、そこに力を注ぎました  
これがスペインを失う始めでした

42 ドン・イリヤン伯爵<sup>10</sup>が、あなたたちはしっかり聞きました  
いかに貢ぎ物を求めてモロッコに渡ったのかを  
この間にこのようなことが起こりました  
王国が全部が破壊されることになるような

43 大きな怒りが彼に裏切りを企てさせました  
彼は非常な権力を持っていたブサウルバン<sup>11</sup>と話をし  
どのように彼がキリスト教徒に打ち勝てるのか

スペインをどのようにしても守ることはできないと言いました

- 44 この時ドン・イリヤン伯爵は言いました  
 《わたしはあなたに本当のことを言います、友であるブサウルバンよ  
 もし私があなたにスペインを与えないなら、私はこれ以上パンは  
 食べないでしょう  
 そうでなければあなたは私を信じないでしょう、犬よりももっと  
 と》
- 45 ブサウルバンは伯爵に言いました：《私は直ちに海を渡り  
 ロドリゴ王に彼の騎士を集めさせ  
 彼らに武器を全部火で焼かせましょう  
 後に自衛できるものを持たないように
- 46 これをし終えたら、あなたは私の知らせを受けるでしょう  
 あなたは全軍を率いて海を渡り  
 民は全く安心しているでしょうから  
 あなたはたやすく王国を征服できるでしょう》
- 47 伯爵はモーロ人たちと別れて、直ちに海を渡りました  
 . . . . .  
 その哀れな男は自らの手で命を絶つべきでした  
 怒り狂う海で溺れ死ぬことはできなかったのですから
- 48 彼は渡るとすぐに王の所へ行きました

《私はへりくだってご挨拶します—と彼は言いました—私の気高い主人である王様  
私はあなたの伝言を実行し、あなたの命令を果たしました  
ここにあなたに送らせた貢ぎ物があります》

- 49 良き王ドン・ロドリゴは彼を快く迎え入れ  
彼の手を取り、自分のそばに座らせました  
彼は言いました：《私の忠実な友よ、あれはどうなったのか  
君に藁だったのか小麦だったのか？》  
（《 》内意味不明である）
- 50 《ご主人さま、もし私の助言をお聞きになりたいなら  
—あなたを君臨させてくださった天の神に感謝  
モー口人もキリスト教徒もあなたに逆らうことはできません  
なんであなたは武器を欲するのですか、戦う必要がないのに
- 51 王国全土に武器を捨てるようにお命じなさい  
人々がそれから鋤を作ってぶどう畠を耕すように  
そしてそれから鋤の刃を作って小麦の種を蒔くように  
すべての馬に耕させるように
- 52 歩兵も騎士も皆パンのために耕すように  
坂道も谷もすべての丘も種を蒔くように  
あなたの王国がパンとお金で富むように  
というのはあなたは誰に対しても兵を差し向ける必要がないのだから

- 53    しかしすべての男たちは自分の土地に帰るように  
       どんな鎧も持っていくことを禁じなさい  
       もしこうしなければ、あなたの怒りに触れるように  
       耕さない動物以外は持たないように
- 54    あなたに騎士たちに給与を払う理由はない  
       彼らは伝来の土地を耕し、自分の家に住むように  
       ロバと馬で大きな耕地を作るように  
       彼らが必要なのはこれで、剣ではありません》
- 55    伯爵は言い終わると  
       一世界中の者がそう言わなくて良かった—  
       .  
       .  
       .
- 56    王ドン・ロドリゴは直ちに伝令たちを送りました  
       .  
       .  
       .
- 57    宮廷全体がに一同に会しました  
       アラゴンとナバラが良い土地だと分かりました  
       レオンとポルトガル、そして素晴らしいカスティリヤ  
       そのような地方は世界に見つからなかったでしょう<sup>12)</sup>
- 58    ドン・ロドリゴが頃合だと思ったとき

全宮廷の前で話し始めました

《聞いてくれ、騎士たちよ、もしキリストがゆるしてくれるなら》

- 59 そうすることを望まれた天の神のおかげで  
このことにおいて我々は神に非常に感謝しなければならない  
なぜなら全スペインが我々の支配下にあるのだから  
スペインが手の内にあったモーロ人たちには不本意だが
- 60 我々はアフリカのかなりの部分を持っている  
そのために不信心者たちは我々に貢ぎ物を差し出す  
目一杯多量の金銀を  
我々は皆すでにアフリカのその部分に関しては安心している
- 61 伯爵、騎士たちは平和の取り決めをしている  
それでこの百年貢ぎ物を受け取っている  
人々は皆安心して暮らせる  
彼らはまったく恐れることなく、自分の家で暮らせるだろう
- 62 我々にはすべてそのような安全があるのだから  
お前たちには平和に生きるすべが与えられることになる  
歩兵と騎士とすべてのお偉方が  
各々その伝来の土地で生きるように
- 63 鎧、兜とすべての籠手  
槍と剣と槍先と背甲

刀と弩と短い投げ槍

それらを火に焼べて、大きな焚火にきなさい

64 それらで鉄器具を作りなさい、そして防具で  
鋤とつるはしと大鋤

手斧と斧とまさかりと大まさかりを作りなさい

これらの物は歩兵が耕すことができるように

65 こういった方法で我々は十分にパンを得られるだろう

大人も子供も幼児にいたるまで

このようにして安全に平和に暮らせるだろう

わたしは君たちが気に入るならこのようになることを望む》

66 私が命じるこの事はすぐに実行されるように

このように行われるのが私の望みだ

武器を持ち込み、それが知られた者は

裏切り者の敵として扱うように

67 私の命令に背く者はすべて

スペインのどこかで後にこの事で見つかれば

その者の体が直ちに処刑されることを

そして明らかな裏切り者に対するように裁きを与えられるように

私は命じる》

68 君たちが分かる通り混乱が起こった

そのような網を張る悪魔が再びそうした



土台がひっくり返り、壁が落ちた  
その時失われたものを君たちは取り返すことができる

69 農民たちはそれを多いに良しとしました  
悪い罪人<sup>つみびと</sup>たちはその裏切りを知りませんでした  
理解された者たちと良き理解者たちは  
言いました：《そのような助言者たちには悪い末路があるように》

70 人々は王の命じる事はすべてしなければなりませんでした  
武器を持っていた者はすぐに廃棄しました  
年をとった悪魔はこの事に意を注ぎました  
キリスト教徒に害を与えるために、他の事には関心がなかったの  
です

71 武器が廃棄され焼かれると  
この知らせがモロッコに届きました  
アフリカの人々はすぐに集まって  
直ちに港にやって来ました

72 皆スペインに渡る用意が十分にできていて  
集まると、海を渡り  
ジブラルタルという港に着きました  
どのくらいの人数だったのか誰も分かりませんでした

73 これらは皆アフリカを支配していた異教徒でした  
彼らはヨーロッパの人々に恨みをもっていました

.....

彼らは入ろうと思っていなかった陸地に入りました

- 74 背教者たちはセビリャに着きました  
その町も他の町も彼らに何もしませんでした  
運命の歯車が悪く回転し  
不幸なスペインはひどく破壊されました
- 75 良き王ドン・ロドリゴはこの事態を前にして  
全王国に御触れを出しました  
月の内に彼の下に来なかった者は  
財産も命も失うことになると
- 76 人々が急な御触れを聞くと  
自分たちの財産や命が脅しにあっているとお触れを  
誰も大胆にも留まっていようとはせず  
期限より前に王の下に馳せ参じました
- 77 王ロドリゴは自分の兵力を集めると  
一膨大な数でしたが、皆武器を持っていませんでした—  
兵士たちはモーロ人との戦いに行き、自分たちの罪をきれいにし  
ました  
というのはこの事は預言者たちによって預言されていたからです
- 78 王ドン・ロドリゴは常に最前線に立ち  
モーロ人に向かって行き、彼らの行くてを阻みました

彼はサンゴネラ<sup>13)</sup>と言う野に陣を構えました  
それはグアディアナ川の近く、その河岸にあります

79 勇敢な攻撃が双方から起こりました  
皆戦いに熱くなっていました  
初めからモーロ人たちは退却に追い込まれました  
それでもその時十字軍兵士たち<sup>14)</sup>は撤退しました

80 それは神に定められ、命じられたことでした  
スペインにいる者たちは剣に貫かれ  
最初の主人たちの所に戻されるだろうと  
モーロ人たちは再び野に戻りました

81 キリスト教徒たちは安全だと思っていました  
モーロ人たちを戦場で破ったのですから  
異教徒たちはその頃には戻っていません  
罪の許しを得なかった者を除いて<sup>15)</sup>

82 明朝異教徒たちは  
皆武装して戦場に赴きました  
ラッパを吹き鳴らし、叫び声をあげながら  
地も空も震えているようでした

83 その時激しい戦いが再開されました  
やめたところから戦闘が始まりました  
すべてのキリスト教徒が死にました、ああなんという事でしょう

その時は彼らは良き王からの命令は知りませんでした

- 84 後に人々はビセオ<sup>16)</sup>で彼の墓を見つけました  
そこには死んだ王が埋められており、次のように書かれていました  
た  
《ここに偉大な血筋の王ドン・ロドリゴが横たわっている  
彼は不運により国を失った》
- 85 聞いているように人々はモーロ人に敗れ  
多くの者が死に、多くの者が捕らえられました  
残りの者たちは自分の運命を呪いながら逃げました  
この知らせはすぐに世界中に広まりました
- 86 しかしこの事すべてにかかわらず彼らは良い手段を選びました  
取れるだけ遺品を取り  
カスティリヤに逃れ、この様にして己を守りました  
他の地出身の者たちは剣で死にました
- 87 旧カスティリヤはしっかり閉じた峠で  
一つしか入り口がありませんでした  
カスティリヤの人々はその峠をしっかりと守っていました  
それ故それは全スペインから取り残されていました
- 88 小さな地域アストゥリアスは残りました  
そこには海に近い谷と山がありました  
モーロ人たちは峠を越えることができませんでした

それ故アストゥリアスは残ることになったのです

- 89 気高いスペインは間もなく破壊され  
異教の民がその主人となりました  
あわれなキリスト教徒たちは非常に酷い生活を送ることになりました  
キリスト教徒たちにとってこの様な大きな苦しみを訪れたことは  
ありませんでした
- 90 異教徒たちは教会の中に馬小屋を作り  
祭壇で多くのひどい気違い沙汰を演じました  
彼らは香部屋から宝物を盗みだし  
キリスト教徒たちは昼も夜も泣いていました
- 91 私はあなた方に非難に価する話をしたい  
彼らはキリスト教徒たちを捕らえて煮るように命じました  
そして食べるまねさえしました  
キリスト教徒たちをさらに恐れさせようとして
- 92 異教徒たちは他の捕虜たちを逃げるに任せました  
なぜなら他の者たちが被る苦しみを見ていたからです  
彼らはいく先々でそれを知らせることになりました  
.....
- 93 彼らは異教徒たちがキリスト教徒たちを煮のを見たとはっきり  
言いました

食べるために人間を煮て焼いたと  
それを聞いた者たちは皆動揺し  
非常な恐れでどこに隠れたら良いのか分かりませんでした

- 94 この様にして彼らは異国人から逃げました  
.....  
皆非常な飢えから山で死にました  
十人や二十人、三十人ではなく、多くの仲間が死にました
- 95 彼らのうちの多くが恐れのため失神しました  
異教徒たちは腕に子供を抱いている母親たちを殺しました  
妻も夫もどうすることもできず  
多くの者が非常な恐怖のため発狂しました
- 96 そして逃げて隠れた惨めな男たちは  
持っていた大きな資産から転じてとても苦しくなりました  
彼らは死ぬか、埋められるほうを望んでいました  
飢えと苦悩のこの様な生活を送るよりも
- 97 かつて安全に暮らしていた人々は  
その土地で今は混乱の中でありました  
愛する子供達からパン切れをもらって食べ  
貧しい者は豊かになり、富める者は貧しくなりました
- 98 不運な者達は言っていました：《我々は悪い時に生まれた  
神は我々にスペインを与えたのに、我々はそれを守れなかった

我々が大きな苦しみの中にいるとしたら、まったく当然のことです

我々の間違った判断のために、我々は大きな過ちに落ち入りました

- 99 もし我々が祖先のようであったなら  
この様な邪悪な人々が力をもっていないでしょう  
祖先はとても善良で、我々は力不足でした  
彼らは我々にとって生まれたての子羊に対する狼のようなものです
- 100 我々が神を軽んじたように、神も我々を軽んじました  
他の者達を得た物を我々は失いました  
我々が神から離れると、神も我々から離れました  
それ故ゴート人達のすべての財産は混乱状態です》
- 101 神は当時悪魔に大きな力を与えました  
峠の向こうまですべてが破壊されました  
恐ろしい様相ですが、書にそうあります  
モーロ人達はトゥール<sup>17)</sup>までもやって来ました
- 102 カスティリアの人々は長い間酷い生活をしました  
非常に狭い土地で非常に粗末な食事で  
とても長い間非常に苦しみ  
異教徒の民を非常に恐れていました

- 103 これらのすべての苦しみの中で不幸であっても  
彼らはキリストの慈悲を信じていました  
異教徒に対して自分たちに哀れみを示してくれるだろうと  
《主よ、私達をお助けください、—と彼らは言いました—私たちが取り戻せるように》
- 104 このような中でキリスト教徒たちはアルマンソル<sup>18)</sup>に捧げなければなりませんでした  
百人の未婚の美しい乙女たちを  
キリスト教徒たちはカスティリヤを一人一人を求めて探して歩かねばなりませんでした  
彼らはそうしなければならなかったのです、しかし非常な心痛をもって
- 105 この苦しみはキリスト教徒にとって恐ろしく長い間続きました  
哀れな彼らは非常に虐げられた人々でした  
彼らは言いました：《主よ、あなたの聖なる慈悲が私達を助けてくださるよう  
あなたは怒れる海で聖ペトロを助けたのですから<sup>19)</sup>
- 106 学者達とともにカタリナ<sup>20)</sup>を助け  
女王エステル<sup>21)</sup>を死から解き放ち  
乙女マリナ<sup>22)</sup>を龍から救い出した主よ  
私たちの傷に慰めと薬を与えてください
- 107 ダビデを獅子から救い<sup>23)</sup>



傲慢な男、ペリステ人を殺し

バビロンの王からユダヤ人たちを解放した主よ

この様な残酷な牢獄から私たちを救い出してください

108 スサナを虚偽の男たちから救い<sup>24)</sup>

ダニエルを獅子どもの間から救い出し<sup>25)</sup>

聖なるマテオを恐ろしい龍どもから救い出した主よ<sup>26)</sup>

私たちをこの様な衝動から救ってください

109 あなたは燃え盛る火から三人の男を救い出しました

それは異教徒たちが彼らをそこに投げ込んだ時でした<sup>27)</sup>

彼らが炉の中でそのような場にふさわしい歌を歌った時

あなたは再び彼らを蛇の口から救い出しました<sup>28)</sup>

110 福音史家聖ヨハネは多くの人の前で

—彼の前には毒で死んだ二人の盗賊が横たわっていました—

それと同じ毒の入った非常に大きな杯を飲みました

しかし松の実を食べたより彼に大きな害は及ぼしませんでした<sup>29)</sup>

111 あなたはこのようにして毒を取り去ることができたのです

彼にどんな害も及ぼさないように

主よ、あなたはその哀れみで私たちを助けるべきです

なぜなら立ち上がるのも倒れるのも私たちはすべてあなたによっているからです

- 112 主よ、あなたは天から降り  
乙女の胎内で真の肉の形を取ることを望まれました  
私たちの考えでは、私たちを高い値で買い戻してくださいました  
私たちを今このように途方に暮れたままにしないでください
- 113 私たちは非常な過ちを犯し、あなたに対して罪を犯しました  
しかし私たちはキリスト教徒で、あなたの戒律は守っています  
わたしたちはあなたの名をいただいており、私たち自身をあなた  
のものと呼んでいます  
私たちはあなたの慈悲を期待しており、他のは希望しません》
- 114 キリスト教徒たちは創造主に願いつつこの生活を続けてきました  
休みなく目に涙して  
夜も昼も常に苦しみを語りながら  
そして彼らが呼び求めているイエス・キリストは彼らに耳を傾け  
ました
- 115 創造主は天使を通して彼らにペラヨ<sup>30)</sup>を探すように  
彼を王にし、敬うように  
土地を守るのに皆が彼を助けるように言いました  
なぜなら彼は土地を守るために彼らを援助するでしょうから
- 116 彼らは命じられたようにペラヨを探し  
洞窟で飢えて難儀をしている彼を見つけました  
彼の手に接吻して統治を託しました  
彼はそれを受けることになりましたが、快くではありませんでした

た

- 117 彼は統治を引き受けました、しかしとても嫌々ながら  
民は彼に守られていると思いました  
異教徒たちはこの知らせを知ると  
皆彼らを攻撃するために駆り立てられました
- 118 異教徒たちはペラヨの居所を知ると探しに来て  
直ちに彼が潜んでいる岩山<sup>31)</sup>を攻撃し始めました  
そこではキリスト様が大きな奇跡を示そうとしました  
私はあなたたちがかつてそのことを話すのを聞いたことがあると  
確信します
- 119 異教徒たちはありったけの投げ矢や矢をペラヨ王に浴びせました  
が  
どれも王にも臣下たちにも届きませんでした  
それらは怒って飛んで行ったのと同じくらい怒って帰って来まし  
た  
矢は他の者たちではなく、彼ら自身を殺しました
- 120 モーロ人たちはこのようなひどい出来事を見て  
自分たちの武器が仲間を殺すというような出来事を見て  
洞窟の包囲を解き、山を出て行きました  
創造主が彼らに激怒していると思って
- 121 創造主の僕であるこのペラヨ王は

これ以上ないほど良く土地を守りました  
 このようにしてキリスト教徒たちは苦しみをなくして行きました  
 しかしアルマンソルに対する恐れは失いませんでした

- 122 ペラヨ王が死にました、キリストが彼を許してくださいますよう  
 に

彼の息子バビラが統治しましたが、とても悪い男でした  
 神は彼のその地の統治が短期間であることを望みました  
 なぜなら彼は一年とちょっとしか生きませんでしたから

- 123 ドン・ペラヨの娘はとても教養のある女性で  
 カンタブリアの君主と結婚しました  
 アルフォンソという名で恐ろしい槍の使い手で  
 その剣で広大な全領土を手に入れました

- 124 彼はポルトガルのピセオ<sup>32)</sup>を手に入れ  
 それから大司教領ブラガ  
 アストルガ、サモラ、サラマンカ、  
 それから高い丘アマヤ<sup>33)</sup>を手に入れました

- 125 幸運な君主であるこのアルフォンソ王が死にました  
 —このような良い王は天国で報いを受けますように—  
 彼の息子ファビアが王になりましたが悪王でした  
 神は彼がわずかしか王位に留まらないことを望みました

- 126 その後非常に勇気のあるアルフォンソが王位につきました

創造主の僕<sup>しもべ</sup>で純粹王と言われました

その時代には人々は平和と喜びのうちに生きました

彼はサン・サルバドルという教会を建てました

127 私たちはどうしてもこの話を延長しなければなりません

私はこの話をカルロス王<sup>34)</sup>に戻したいのです

この王はアルフォンソ王に伝言を送らせました

征服するためにスペインに来ると

128 アルフォンソ王はカルロス王に伝言を返しました

貢ぎ物を納めるのに同意はしない

献納してまで統治はしたくない

そのような取り決めをすれば自分はバカと呼ばれるだろうと

129 アルフォンソ王は以前の方が良い

スペインの統治をフランスにされるよりは

フランス人たちはそのようなことを誇りにできないだろう

彼らは五年でスペインを手に入れる方を望んでいると言いました

130 カルロス王はこの伝言に関して会議を開きました

必要な通りの助言は得られませんでした

彼の有名な民は助言しました

全軍と共にスペインに行くようにと

131 彼は軍を集めました、大きく途方もないものでした

カスティリャに向けて進軍しましたが、私は狂気の沙汰だったと

思います

彼に進言した者に恨みがなくなることがありませんように  
なぜならこの進軍は彼の運命の汚点だったからです

132 ベルナルド・デル・カルピオ<sup>35)</sup>は知りました、フランス人たちが  
来ることを

皆フエンテラビーア<sup>36)</sup>に着いて  
彼らの考えではスペインを征服するために  
しかし征服しても、それは誤りであることを

133 ベルナルドは大軍を集め

そこから港に送りました  
純粋王アルフォンソは彼にすべての兵を与え  
カルロス王をその港に行かせませんでした

134 彼はフランス人の王たちや貴族たちを殺しました

それは書にあるように七人だったとお知りおきください  
多くの者が死にました、これは容易に信じられるでしょう  
彼らは故郷に決して帰ることはありませんでした

135 カルロス王は今回は運が悪かったと思いました

アルフォンソ王がそこから入るのを阻止したと見ると  
多くの人々と全家臣と共に移動し  
すぐにマルセイユの港に帰りました

136 フランス人たちが港に着くと

彼らを導いた神に感謝を捧げました  
 とても疲れていたなので、休息し眠りました  
 もしその時引き返していたら、彼らは非常に幸運だったでしょう

- 137 彼らはスペインに渡ることを取り決めていました  
 そこには塔も小屋もありませんでした

.....  
 .....

- 138 全軍で赴き  
 再びヒタレア<sup>37)</sup>の峠にさしかかりました

.....  
 .....

- 139 フランス軍は皆非常に装備がよく整っていて  
 アスパの峠<sup>38)</sup>をすぐに越えました  
 彼らは来なくともよく取り決めができていたでしょう  
 というのは彼らは生まれた所には決して再び帰って行きませんでしたから

- 140 私たちはフランス人たちをスペインに通しましょう  
 この土地を征服するのに皆非常によく準備ができています  
 私たちは輝かしい功績のあるベルナルドの所に戻りましょう  
 彼はスペイン人の兵力を結集しました

- 141 ベルナルド・デル・カルピオは全家臣を伴って出発しました

—モーロ人に対してなら（彼らの力は）証明済みです—  
 彼らは激しく怒る川を渡って行きました  
 それは常々エプロと呼ばれ、今日でもそうです

- 142 彼らは異教の民が住むサラゴサに行きました  
 ベルナルド・デル・カルピオはマルシル王<sup>39)</sup>の手に接吻し  
 カスティリヤの騎士達を前衛に置くように頼みました  
 十二人の大貴族<sup>40)</sup>に対してそのたくましい騎士達を
- 143 マルシル王はすぐに認め、喜んでそうしました  
 彼はそのような頼みは決して聞いたことがありませんでした  
 ベルナルド・デル・カルピオはその恐るべき騎士達と共に出発し  
 ました  
 カスティリヤの騎士達にしっかり守られて
- 144 その戦いではベルナルド・デル・カルピオは前衛を務めました  
 非常に価値あるスペイン人騎士達と共に  
 その時はフランス人達を容易く破りました  
 敗北は最初のものよりずっとひどいものでした
- 145 それ故私はあなた達に良くわかってほしい  
 あなた達の住んでいる土地は他より良く  
 あなた達が居る土地はすべてをよく備えていると  
 どれだけの良さなのかあなた達に今話しましょう
- 146 土地はあまり暑くなく非常に温暖で



冬でもひどく寒くない  
こんなに牧草のある所は世界になく  
千種類もの果樹がある

- 147 すべての土地の中で山が素晴らしく  
牛や羊にこれほどの大きな土地はありません  
そこには非常にたくさんの豚がいるので大変なものです  
多くの土地はスペインにとって有益です
- 148 土地は亜麻や羊毛に非常に富んでいて  
すべての土地の中でロウソクの生産に適していると知られていま  
す  
これほどオリーブの取れる所は世界にないでしょう  
イギリスもフランスもこれは豊かではありません
- 149 狩りに適していて、獲物もたくさんいます  
川にも海にも多くの良い魚がいます  
新鮮なものを好む人もいれば、塩漬けを好む人もいます  
これらで民は非常に豊かです
- 150 パンとぶどう酒は非常に豊富な土地です  
同等以上の土地は世界に見つからないでしょう  
良い泉と水量豊かな川がたくさんあります  
他には塩を取る多くの鉱山があります<sup>41)</sup>
- 151 そこには金の鉱脈があり、非常に高品質です

鉄と銀の多くの良質の鉱脈もあります  
山脈や谷には良質な森林が多数あり  
皆緋色の染料を取るための実をいっぱいつけています

- 152 一番価値のあることはまだ言っていませんでした  
良い馬についてはあなたたちに言及していませんでした  
我々が見たすべての中でこの土地が一番です  
そしてこのような馬は世界中で見たことがありませんでした
- 153 この話は止めにします、あなた達に十分お話ししました  
これ以上は話したくありません、間違うかもしれませんから  
しかし高潔な使徒のことは忘れないようにしましょう  
サンティアゴ（聖ヤコブ）と呼ばれるゼバダイ<sup>42)</sup>の息子です
- 154 神はスペインに名誉を与えることを強く望まれました  
そこにその聖なる使徒を送ろうとしたときに  
スペインがイギリスやフランスを凌ぐことを望まれました  
それらの地のどこにも使徒は眠っていないことをお知りおきください
- 155 栄えある主は他の方法でもスペインに名誉を与えました  
主への愛のために多くの聖人がそこで殺されました  
彼らは斬り殺されるのを恐れませんでした  
多くの処女聖人、多くの良き証聖者もそうでした
- 156 スペインが隣人達よりもより素晴らしいように

そのようにスペインに住んでいるあなた達もより素晴らしい  
あなた達は思慮深く、節度を受け継いでいます  
このことであなた達は世界中で非常な名声を得ている

157 しかし全スペインの中でカスティリャは最高です  
なぜなら他よりもその起源が大きかったからです  
主を常に守り、恐れたので  
創造主がそれでそれを大きくすることを望まれたのです

158 旧カスティリャさえ、私の考えでは  
他よりもましです、それが元でしたから  
なぜならそれはわずかな人数でしたが多くを征服したからです  
あなた達は最後にそれがよく分かるでしょう

159 それで私はこの話を終わりにしたいと思います  
もっと話したら私は間違うのではと恐れています  
同様にあなた達にも話を長引かせてほしくないのです  
私は純粹王ドン・アルフォンソに立ち戻りたいと思います

160 王はとても分別があり、非常な勇気の持ち主で  
創造主の僕で親友<sup>しもべ</sup>でした  
王はこの世界からより良い世界に行き  
その時この地全部が君主なしになりました

161 スペイン人達はとても苦悩していました  
皆非常に長い間対立していて

君主のない人間として悲しく、苦しんでいました  
《生まれなかったほうがずっと良かった》と書いていました

- 162 カスティリヤの人々が事がこのように運び  
王を立てるために同意が出来ないのを見ると  
羊飼いなしには上手く行かないことが分かり  
犬どもを追い払う事のできる人を選びました
- 163 カスティリヤの人々はすべて意見が一致しました  
非常に評価の高い二人の男を代官に立てました  
カスティリヤの民は彼らによって自分自身を導きました  
非常に長い間王を置くことはありませんでした
- 164 代官達についてどんな名なのかお話ししましょう  
彼らの子孫に移る前に  
彼らはモーロ人に対して多くの立派な戦いをして  
そのすごい勇気で大きな地を征服しました
- 165 ドン・ヌニョ<sup>43)</sup>はその一人で、非常な勇気の持ち主でした  
その血筋から戦士の伯爵が生まれました  
もう一人は良き闘士ドン・ライノで  
その血筋からエル・シドが生まれました
- 166 ヌニョ・ラスーラ<sup>44)</sup>の息子は非常に賢い人でした  
ゴンサロという名で非常に大胆で  
土地をよく守り、できることはすべてしました

彼は不信心者を追い出していきました

- 167 ゴンサロ・ヌニェス<sup>45)</sup>には三人の息子がいました  
三人とも非常に評価が高く、大きな心の持ち主でした  
彼らは土地を分けて、小郷士達に与えました  
彼らが分けた所には印があります
- 168 ドン・ディエゴ・ゴンサレスは長男  
ロドリゴは次男、そしてフェルナンドは末っ子でした  
三人とも立派でしたが、フェルナンドは最も優れていました  
モーロ人アルマンソルから広大な土地を奪ったのですから
- 169 堂々たる騎士ディエゴ・ゴンサレスは死に  
もう一人の兄弟に土地を全部残しました  
ドン・ロドリゴという名の次男で  
非常に長い間カステリヤの民の君主でした
- 170 創造主に定められた時が来ると  
ドン・ルイ・ゴンサレスはより良い世界に旅立ち  
土地をすべて弟に残しました  
ドン・フェルナンドという名で、とても勇敢な人物でした
- 171 当時カステリヤは小さな片隅にありました  
オカの山々<sup>46)</sup>がカステリヤの民の境界で  
イテロ<sup>47)</sup>がもう一方の境界でした  
当時はカラソ<sup>48)</sup>はモーロ人が持っていました

- 172 カステイリヤ全体が小さな所に過ぎませんでした  
貧しくわずかな価値しかありませんでしたが  
カステイリヤは優秀な人物には決して欠けてはいませんでした  
それは今日でも見られます
- 173 カステイリヤの人々にとってはこれが望みでした  
自分たちの君主が一番高い地位に就くことが  
彼らは貧しい地域を伯爵領にし  
後に王国の頭にしました
- 174 その最初の伯爵は名をフェルナンドと言ひ  
世界中にこのような騎士は他にいませんでした  
彼はモーロ人の不倶戴天の敵でした  
人々は彼をその戦い方の故に残酷なハゲタカと呼んでいました
- 175 彼は異教徒たちと大いに戦い  
彼らを非常に苦しめ  
カステイリヤをととても大きくしました  
彼の時代に多くの血が流されました
- 176 ドン・フェルナンド伯爵は非常にわずかな仲間と共に  
一彼のしたことを語るのには偉業に思えるでしょう—  
いつもスペインの王たちと戦いました  
彼らのことは重要視していませんでした
- 177 委細に入る前に

あなた達に伯爵の幼少期がどんなものだったか話しておきましょう  
う

炭を焼いている貧しい男が彼を盗み  
山で非常に長い間育てました

- 178 その男は仕事から得ることができたすべてを  
喜んでその良き子に与え  
その血筋について理解させました  
少年はそれを聞くととても喜びました

- 179 少年が事を理解して行くと  
モーロ人達がいかにカスティリヤを荒らして行っているかを聞き  
ました  
《キリスト様、私をお助けください—と言いました—、私はあなたに身をゆだねます  
私の理解では、カスティリヤが苦悩しています

- 180 主よ、あなたがそう判断なさるなら、時は来ました  
運に任せて回る車輪をあなたが変える時が  
カスティリヤの民は十分に辛酸を嘗めました  
人がこのような逆境にさらされたことはありませんでした

- 181 主よ、もう小屋から出る時です  
私は山で暮らすほど勇敢な熊ではありませんから  
すでに私の仲間達が私について知る時です  
そして私が世界と常ならぬ事々について知る時です

- 182 カステイリヤの民には日陰と庇護がなくなりました  
私の兄のロドリゴを失った時に  
モーロ人達には彼は不倶戴天の敵でした  
もし私がここから出なければ、イチジクにも値しない者になるでしょう》
- 183 彼は山を出て、村にやって来ました  
彼を育てた哀れな男と共に  
間も無くその事は伯爵領全体に知れわたりました  
それ以上の喜びを母親から生まれた人間が味わったことはありませんでした
- 184 カステイリヤの民は自分たちの君主に会いに来ました  
子供も大人も皆彼を喜びました  
彼らは伯爵領全体を彼の支配下に置きました  
世界でこれ以上の君主を持つことはできませんでした
- 185 彼は自分がカステイリヤの君主だと分かると  
両手を神に向かって上げ、創造主に願いました  
《主よ、非常な罪人つみびとの私をお助けください  
私がかステイリヤを昔の苦しみから救い出せますように
- 186 主よ、私に勇氣と知恵と分別をお与えください  
私が不信心者に復讐し  
カステイリヤの民が失った物を幾らかでも取り戻し  
私が役に幾分たつたとあなたが思えるように



- 187 主よ、彼らは長い間苦しい生活をしていて  
不信心者に非常に抑圧されています  
王の中の王である主よ、あなたの助けをください  
私がかスティリヤを良い状態に戻せるよう
- 188 私たちが何らかの過ちを犯してあなたの怒りに触れても  
私たちに大きな罰を与えないでください  
私たちはすべてのスペイン人の人質なのでから  
そして君主が奴隷になるのは私は大変なことだと思います
- 189 主よ、あなたは私たちがどんな生活に耐えているか知っています  
私たちがあなたを呼んでも、あなたは私たちに耳を傾けようとは  
しません  
私たちは残念ながらどんな助言に従ったらいいのか分かりません  
主よ、私たちは大人も子供もあなたの慈悲を待ち望んでいます
- 190 主よ、私はこのような慈悲をあなたに乞いたいのです  
あなたの臣下ですので、私がしくじることを望まないでください  
と  
主よ、私はあなたと共に征服することを切望しています  
かスティリヤが逼迫から抜け出せますように》
- 191 その若者は完璧な祈りを捧げました  
心から祈ったので聞き入れられました  
彼は不信心者と大きな戦闘を繰り広げました  
しかし生涯敗れることはありませんでした

- 192 彼は若者だったけれど悠長ではありませんでした  
モーロ人に対して激しい戦いを始めました  
臣下たちと共に進み、カラソを包囲しました  
それはとても高い所にある、非常にしっかりした城塞でした
- 193 カスティリヤの伯爵はそのすべての兵士と共に  
小郷士のように塔を攻撃していました  
歩兵たちは投げ矢と短い投げ槍で戦い  
衷心から神に仕えていました
- 194 モーロ人たちは持ちこたえられませんでした  
アルマンソルが助けに入るまでは  
モーロ人たちは力で敗れ  
キリスト教徒たちは塔を手中に収めました
- 195 すぐに知らせがアルマンソルに届き  
どのようにしてカラソを失ったかを知りました  
彼は言いました：《私はすでに伯爵にひどく痛めつけられている  
もし彼に復讐しなければ、私は呪われて生まれたことになる》
- 196 アルマンソルは大急ぎで支配地域に伝令を  
次々に書簡や特使を送りました  
直ちに歩兵や騎士が来るように  
そして王たちがこれらすべての先頭に立つようにと
- 197 合流した時に彼の元に臣下、

王たち、大貴族たち、そして多くの小郷士たちが  
もし私たちが彼らを全部、騎士や歩兵を数えたら、  
五千の軍団以上の数だったでしょう

- 198 アルマンソルが兵力を結集して  
カスティリヤに怒り狂って進軍した時  
非常に激しく伯爵に脅しをかけ  
搜索されなかった土地はなかったでしょう
- 199 伯爵がすでにこの知らせ  
アルマンソルがどのように進軍して来るかを聞き  
全アルメリアから戦いの叫びが聞こえてきました  
誰もこれ以上の軍勢を見たことはありませんでした
- 200 伯爵は急いでカスティリヤに指令を送りました  
皆ムニヨ<sup>49)</sup>に彼の元に集まるようにと  
彼は地方長官たちに知らせました  
いかに彼らがアルマンソルに挑まれているかを
- 201 彼は何に賛同するのか臣下たちと話しました  
どんな助言をするのかすべての人に耳を傾けることを望みました  
打って出るのか待つべきか  
あるいは何を最上の策と思うのか

## 注

1) 西ゴート最後の王

- 2) 旧約聖書エゼキエル書、新約聖書黙示録に登場する神に逆らう勢力
- 3) この時代にアレクサンデルという名の教皇は存在せず、この歌が書かれた十三世紀にアレクサンデル四世がいる
- 4) フランス中央部
- 5) Reccesuinth あるいは父親の Chindasuinth
- 6) バンバの意味は不明で、初めは高齢のため王位に就くことを拒んでいた
- 7) Egica は直後ではない
- 8) 恐らく後継者 Rodrigo に暗殺された
- 9) アトラス山脈のこと
- 10) Iulianus のことで Ceuta の太守
- 11) 北アフリカのベルベル人の軍の隊長、Tariq bin Ziyad
- 12) これらの地名は当時存在しなかった
- 13) 場所がはっきりしない
- 14) 時がこの叙事詩の作者の時代に飛んでいて、ここでは「キリスト教徒たち」の意
- 15) 「死んだ者以外は」の意であろう
- 16) ポルトガル北部の町 Viseu のことか
- 17) フランス中部の町
- 18) アラブ（後ウマイヤ王朝）の事実上の王であるが、Fernán González とは時代が違う
- 19) 新約聖書マタイ伝 14：24-33
- 20) アレクサンドリアの伝説上の女性
- 21) 旧約聖書エステル記 7：3-4
- 22) アンティオキアの伝説上の女性
- 23) 旧約聖書サムエル記上 17：37-58
- 24) 聖書外典
- 25) 旧約聖書ダニエル書 6：16-24
- 26) 中世の伝説
- 27) 旧約聖書ダニエル書 3：1-30
- 28) この箇所聖書には記述がない
- 29) この連は新約聖書マタイ伝 20：23 から着想を得ている
- 30) 初代アストゥリアスの王で、彼の下 Covadonga でキリスト教徒が初めてイスラム軍を破り、Reconquista の初めとなった
- 31) Covadonga の山々のこと
- 32) 16) と同じ町か
- 33) ブルゴス地方にある山

- 34) シャルル・マーニュのこと
- 35) 架空の人物
- 36) ビスケー湾に注ぐスペインとフランスの国境の川ビダソア (Bidasoa) の河口の町であるがこの時代に存在したかは不明
- 37) ピレネー山中フランスとナバラの間の地域で有名な戦場がある
- 38) ピレネー山脈中部の峠
- 39) 架空の人物
- 40) シャルル・マニュの架空の主要貴族
- 41) 岩塩のことであろう
- 42) 新訳聖書マタイ伝 4 : 21、マルコ伝 1 : 20、etc.
- 43) カステイリヤの代官
- 44) スニヨの息子
- 45) don Ruy González de Clavijo のことか
- 46) ブルゴス地方の山脈
- 47) 現在の Itero del Castillo で当時は城砦都市
- 48) ブルゴス地方の地名
- 49) Arlanza 川左岸の街 San Pedro de Arlanza

## 参考図書・辞書

THE POEM OF FERNÁN GONZÁLEZ P. Such and R. Rabone OXBOW BOOKS 2015

POEMA DE FERNÁN GONZÁLEZ Edición H. Salvador Martínez Colección Austral 1995

Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986

Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfospolis 2002

Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A.Kasten and Florian The Hispanic Seminary of  
Medieval Studies New York 2001

Larousse Universal diccionario enciclopédico Librairie Larousse Paris 1968